

第6回コンパクトなまちづくり専門小委員会 議事概要

日 時	平成 28 年 11 月 7 日（月） 10 時 00 分～11 時 35 分		
場 所	北九州市役所 5 階 プレゼンルーム		
出席者		氏 名	役 職 名
	委 員	白木 裕子	（一社）日本介護支援専門員協会 理事
	委 員	寺町 賢一	九州工業大学大学院 工学研究院 建設社会工学研究系 准教授
	委 員	◎柳井 雅人	北九州市立大学 経済学部 教授
	臨時委員	泉 優佳理	元北九州ミズ 21 委員会（第 8 期）委員
	臨時委員	木内 望	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市計画研究室長
	臨時委員	志賀 勉	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門計画環境系 准教授
	事 務 局	建築都市局（都市計画課）	
議事内容	<p>1 開 会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）立地適正化計画について</p> <p>（2）都市計画マスタープランの構成（案）について</p> <p>（3）都市計画マスタープランの前回資料の修正点等について</p> <p>（4）都市計画の基本方針及び都市空間形成の基本方向（将来都市構造）について</p> <p>（5）今後のスケジュールについて</p> <p>3 閉会</p>		

◎：委員長

第6回コンパクトなまちづくり専門小委員会の主な意見

1. 都市計画マスタープランの構成（案）について

○都市計画マスタープランは、必要に応じて見直していくことが望ましい。地域別構想も含め、適宜改正できるようなものとなるよう検討してほしい。

2. 都市計画マスタープランの改定について

○人口減少に備えるという考え方と人口回復を狙っていくという二つの考え方があるが、どっちつかずとなっているので、どういう方針をとるのかについて明確にするべき。

○立地適正化計画との整合を図る場合、将来の人口減少懸念を示さなければ理解しにくいと考える。人口の将来推計のデータも参考として掲載したほうがよい。

○土地利用の基本方向を最初に考えるのではなく、将来の都市空間をどのように作っていくのか、その中で、都市構造、線引き制度、誘導区域をどう使っていくのかという順番で記載したほうが、市民には分かりやすいのではないか。

○まちづくりは、行政と市民が協働しないと成り立たない。計画全体を通して、市民と行政が協働して取り組んでいく、といった考え方を示したほうがよい。

○基本理念にある「集約型の都市づくり」という文言は、堅くて分かりにくい表現である。「コンパクト」や「街なかを重視した」といった分かりやすい表現にしたほうがよい。

○想定最大規模の災害に備えてどうするのかといった記述をもっと充実させるべき。防災そのものを目的とするものではなく、生活環境を向上させていくという取組のなか、防災の観点も取り入れて取り組んでいくという観点を記載するとよいのでは。

○環境に関する取組は広範囲にわたるため、都市計画マスタープランに盛り込むのは難しい。環境のために何を行うというのではなく、計画遂行に取り組むことで、環境によいといった表現にしたほうがよいのではないか。

○「市民を主役とする協働の促進」に関して、市民センターにまちづくりをサポートする機能を強化するという観点を追加してはどうか。